

資料3

観察フォームによる児童生徒の実態把握（各観点に対し、該当する判断基準に○を記入）

項目	観点	○ ↓	判断基準	項目	観点	○ ↓	判断基準	項目	観点	○ ↓	判断基準
自立	登校		送迎すると登室できる	対人関係	視線		相手の顔や目を見ることができない	家庭生活	起床		まったく時間通りに起きることができない
			自分の意思で登室できる				うつむきがちだが相手を見ることができない				時々、時間通りに起きることができない。
			10時までには登室できる				時々なら、相手の顔を見ることができない				ほぼ時間通りに起きることができない
			9時までには登室できる				気の合う人とは、目を合わせることができない				起床時間はしっかり身につけている
			遅刻せずに登室できる				誰とでも目を合わせることができない				時間通りに起きて諸準備をする事ができる
	挨拶		挨拶をする意思がない	反応		何に対してもまったく反応を示さない	朝食			少しも朝食を食べることができない	
			挨拶をする意思がある			興味あるものには反応できる				たまに朝食を抜くことがある。	
			声をかけられると挨拶をする			気の合う人に微笑むことができる				準備をしてもらえると朝食を食べることができる	
			自ら進んで挨拶ができる			声を出して笑うことができる				毎日、少しでも朝食を食べることができる	
			誰とでも挨拶することができる			話に共感しながら笑うことができる				毎日、朝食をしっかりと食べることができる	
	活動		指示しても活動しない	会話		話をする事ができない	外出			ほとんど家から出ることが無い	
			指示されると気分によって活動できる			話の輪の中に入ることができない				休みの日なら外に出ることがある	
		誰かが一緒なら活動できる			気の合う人とはおしゃべりができる			家族や身近な人となら外出できる			
		指示されて活動ができる			自分の気持ちを話すことができる			家の近くであれば、一人で外出できる			
集中力		自分で考えて活動ができる		誰とでもおしゃべりができる		自転車等を利用し、一人で隠すことなく外出できる					
	学習		まったく集中できない	遊び		遊びに入ろうとしない	帰宅		家に帰らないときもある。		
			興味・関心があるものは集中できる			遊ばないが、見ていることができる			決まった時間に帰ることはほとんど無い。		
			何事もある程度集中できるがむらがある			誘われたら遊ぶことができる			誰かが迎えると、帰宅する頃ができる		
		何事もある程度集中できる			気の合う人となら遊ぶことができる			門限があり、決まった時間に帰ることが多い。			
学習		何事も根気強く集中できる	気遣い		声をかけてみんなと遊ぶことができる	就寝		毎日、心配なく決まった時間に帰ることができる			
		学習をする意思がない			相手を気遣う意思がない			時間通りに寝ることができない			
		学習に関する話題に耳を傾けることができる			声をかけると気遣うことができる			12時までには時間通りに寝ることができる			
		短時間なら与えられた課題に取り組むことができる			決められている事には取り組むことができる			11時までには時間通り寝ることができる			
	短時間なら学習計画を立て課題に取り組む事ができる		身近な人には気遣うことができる		10時までには時間通りに寝ることができる						
	自ら学習計画を立て、粘り強く学習することができる		誰にでも気遣う事ができる		早めに就寝し、十分睡眠をとることができる。						

指導上の留意点（問題点・本人の性格・適応指導教室での配慮など）